

麦秋

観賞日 2025年3月10日 上映時間 124分

【概要】

制作 1951年 松竹

監督 小津安二郎

脚本 野田高梧、小津安二郎

音楽 伊藤宣二

撮影 厚田雄春

出演 原節子(間宮紀子)、笠智衆(間宮康一)、淡島千景(田村あや)、三宅邦子(間宮史子)

菅井一郎(間宮周吉)、東山千栄子(間宮志げ)、杉村春子(矢部たみ)

二本柳寛(矢部謙吉)、佐野周二(佐竹宗太郎)



【あらすじ】

鎌倉に住む間宮一家。周吉、志げの老夫婦に長男康一、長女紀子、それに康一の妻史子と二人の子供の長男実と次男勇の三世代七人の大家族。康一は東京の病院で医師をしており、紀子は丸の内 OL をしている。一家の生活は至って平穏無事であるが、28歳の紀子が結婚せずに家にいるのが悩みの種となっている。そんな時、紀子の会社の上司、佐竹専務から、見合い話が持ち込まれる。相手は佐竹の商大の先輩で商社の常務。四国の旧家の次男坊だという。年齢は紀子と一回り違いの40歳であるが初婚とのこと。紀子もまんざらではなさそうな様子で、一家を挙げて話を進めようと動く。近所に住む康一の部下で戦死した次男の省二の友人でもある矢部謙吉に秋田への転勤話が持ち上がる。矢部は一昨年に妻に先立たれていた。矢部の母たみはダメもとで紀子に謙吉との結婚話をもちかける。すると、紀子の答えは思いがけないもので…。

紀子三部作の二作目。古風なアプレゲール原節子の魅力満載の作品。

【解説】

■ポイント

●紀子三部作

	晩春(昨年観賞)	麦秋(今回)	東京物語(来年観賞予定)
公開年	1949年	1951年	1953年
笠と原の役柄の関係	父と娘	兄と妹	父と戦死した次男の嫁
舞台	鎌倉	鎌倉	東京と尾道
テーマ	適齢期の女性の結婚	適齢期の女性の結婚	老齢な両親と子供達

●評価

・第25回(1951年)キネマ旬報ベストテン:第1位

・キネマ旬報「オールタイムベスト100」日本映画編(1999年版):21位

■見どころ

●当時の女性の仕事と結婚事情

当時は戦争の影響で女性にとって結婚難の時代。就職しても、結婚すれば退職(寿退社)が一般的な時代。

●紀子は何故、真鍋ではなく矢部を選んだのか

また、最初反対していた家族はどうして結婚を認めたのか